

## (様式 1 - 表)

## 令和 7 年度 特色ある学校づくり推進事業 計画書

学校番号	9	豊田市立 平井小 学校	代表	尾坂 宏樹
------	---	-------------	----	-------

※分野【a：国際交流・国際理解、b：地域連携、c：自然体験、d：環境教育、e：学力向上、f：交流体験、g：福祉・ボランティア、h：伝統文化、i：その他（ ）】から選ぶ。

テーマ	「やまびこの森」や校庭の自然と触れ合う縦割り班活動	分野	C	自然体験
	サブテーマ ～やまびこ遊びで自然と友達になろう～	[(その他)は分野を右欄に記入]		
学校づくりの視点（ねらい）	<p>本校の教育目標「ね・れ・か・て」（ねばり強い子・れいぎ正しい子・からだをきたえる子・てをつなぐ子）の実現に向けて、「やまびこの森」（学校林）を整備し、自然と触れ合う活動の基盤づくりを図る。また、縦割り集団（以下、やまびこ班）による活動を通して、でコミュニケーション能力、行事に取り組む計画性と協調性に関わる資質・能力の向上を目指す。</p> <p>そのために、「やまびこの森」を活用するやまびこ遊び、学校行事である「どんぐりごま大会」や「やまびこカルタ大会」を中心にやまびこ班活動の支援をしていく。計画を立てる高学年は、計画・実践をすることでリーダー性や協調性を身につけていく。さらに、やまびこ班でやまびこの森で活動することを通して、子どもたちは自然の素晴らしさを感じる心、互いを思いやる心、自律心を育むことができる。</p> <p>その他、やまびこの森が整備されてから 40 年以上が経過し、森全体の老朽化が目立ってきている。これらの整備を進める上でも、校内整備員の配備は欠かせないものがある。造園業者、校内整備員と子どもたちが連携しながら、やまびこの森を守っていくと考えている。</p>			
活動内容・計画	<p>○日常の遊びの場として、やまびこの森を活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の自然と触れ合う「やまびこ遊び」を計画する。</li> <li>・月に 2 回、清掃時間を活用したやまびこ遊びを行い、異学年が触れ合う場とする。</li> </ul> <p>○遊びの計画を高学年の児童に企画・運営する機会を与えることで、リーダー性の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年で考えた新しい遊びを、やまびこ班で広める活動も合わせて計画する。</li> <li>・やまびこ遊びの集大成として、どんぐりごま大会、やまびこカルタ大会を「やまびこ委員会」が中心となって計画する。</li> <li>・10 月にどんぐりごま大会、1 月にやまびこカルタ大会を予定する。</li> </ul> <p>○やまびこの森の整備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やまびこの森の点検を行い、危険箇所の保全や、森全体の整備を行う。</li> <li>・どんぐりごま作りの道具の購入をする。</li> </ul>			
補助員配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内整備員</li> </ul>			
実績・期待される効果	<p>やまびこの森を中心としたやまびこ班活動を通して、自然のもつ偉大さを感じ取り、他人に対する思いやりの心をもった子どもたちに育っていくだろう。さらに、異学年で交流するやまびこ班活動を通して協調性が育まれ、高学年の子どもたちには、計画性や集団を動かす力、協力を求める力などのリーダー性が向上していくだろう。</p> <p>こうした集団の中で生活する子どもたちは、自然や地域に愛着をもち、友人や地域の人を思いやることができる、ふるさと平井・この地域に根ざす人間として育っていくだろうと期待している。30 年を超えた伝統あるやまびこカルタは、継続・充実を図ることで学校や地域の宝となりつつある。親子での会話も弾む活動になることを期待している。</p> <p>また、校内整備員の配置により、森の整備を含め子どもたちの安全な学校生活につながる校内修繕が迅速に実行できるだろう。</p>			
検証方法	<p>学校からのお便りや学校 H P で活動を広く発信し、保護者や地域に広く伝えていく。このことが保護者・地域の理解や協力・支援が得られることにつながり、子どもの成長を家庭・地域と学校が手を携えることになる。</p> <p>やまびこ班を中心とする縦割り活動は、保護者や地域住民から「素晴らしい活動なので、これからも続けてほしい」という賛同の声を今までも得ている。保護者アンケートで、今年度も検証していく。</p> <p>また、学校自己評価や学校アドバイザー会議での検証を進めて、何を変革・改善するとよいのか、常に改革の意識をもって次年度へつなげていく。</p>			